

令和 6 年 5 月 6 日現在

機関番号：32616

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K13032

研究課題名（和文）中国語方言音における地理的連続性と通時的変化の研究

研究課題名（英文）Research on the geographical continuity and diachronic changes of sounds in Chinese dialects

研究代表者

八木 堅二（Yagi, Kenji）

国土館大学・政経学部・准教授

研究者番号：60771102

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は言語類型地理論的観点から中国語音韻構造の形成と変化の過程を分析するものである。中国語方言は多くの言語構成要素の類型的境界に位置し、その形成・変化及び周辺言語との関連の解明は中国語史のみならず世界の言語形成の理解に寄与する。声調や母音等の中国語音韻史と類型論の双方から重要な現象やそれと関連する音節構造や子音体系を扱い、周辺言語との関連についても初歩的な分析を行った。当初臨地調査を行う予定であったが、新型コロナウイルス蔓延の影響により言語地理学的研究に重点を置くこととした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究はWALSやアジア言語地図等、世界規模での言語研究と個別言語・方言研究との間隙を埋める役割を担う。発展・基礎・萌芽の三段階で研究を進め、着実な研究成果を積み上げつつ研究の裾野を広げ革新的な知見を得る研究継続サイクルを構築することで、より規模の大きな研究を展開するための基盤を強化する効果が期待される。

研究成果の概要（英文）：This study analyzes the formation and evolution of Chinese phonological structures from a geolinguistic perspective. Chinese dialects occupy typological boundaries of many linguistic constituents, and understanding their formation, changes, and their relation with surrounding languages contributes not only to the understanding of Chinese linguistic history but also to global language formation. Important phenomena related to Chinese phonological history, such as tones and vowels, are examined from both a historical and typological perspective, along with their associated syllable structures and consonant systems. While initial plans included field investigations, the spread of the coronavirus led to a shift in focus towards linguistic geographic research.

研究分野：中国語方言学

キーワード：中国語 方言 音韻

1. 研究開始当初の背景

中国語はアジアの言語の中では文献資料に恵まれているが、その形成過程には未だに多くの未解明な点が残されている。1970年代に橋本萬太郎が言語類型地理論を提唱し、中国語が世界の言語構造に関する類型の境界に位置することを発見し、その方言研究や周辺言語研究の重要性を指摘したが、2005年にMartin Haspelmath等編のThe World Atlas of Language Structures (WALS)が刊行され、橋本の議論についてもおぼろげながら裏付けが進み、目下、より詳細・精密な調査と研究が待たれている。一方、日本でも岩田礼や遠藤光暁等が橋本を引き継ぐ形で中国語の言語地理学的研究を進めており、基礎的な研究基盤が整えられてきた。しかし中国語の形成過程の全体像を明らかにするためには、それらの研究を引き継ぎつつ、より体系的かつ詳細な研究を行っていく必要がある。

2. 研究の目的

本研究は中国語方言の音声・音韻の形成過程を対象として調査と分析を進め、中国語の音韻構造の変化を明らかにし、周辺言語との関係や類型論上の位置付けに関する議論を深めることを目的とする。岩田・遠藤等により中国語の語彙項目を中心とした言語地理学的研究が進められてきたが、音韻項目に関する体系的な研究は不足している。本研究はそのような不足を補っていく。研究内容は三つの段階に分かれ、(1)今までの(自分自身や他者の)研究を基礎としながらさらに深く内容を掘り下げる発展的研究、(2)(1)の内容と関連しながら発展的研究の土台となる基礎的研究、(3)さらに言語を体系的に考察していくために必要な周辺領域の萌芽的研究、からなる。従前からの研究成果を基にそれらをさらに発展させていくとともに、その内容に関連する事象の基礎的調査・研究を行い議論の基礎を強化する。さらに文法や少数民族言語といった周辺領域にまで研究の視野を広げ、体系としての言語変化の中で音韻変化の占める位置付けを考察していく点に本研究の創造性がある。

3. 研究の方法

研究の主要な方法は言語情報に関するデータベースを作成した上で地図化し、文献から得られる情報を参照した上で地理的分布の解釈を施す言語地理学的研究を中心とする。発展的研究では「声調・軽声・母音長」「前舌円唇母音(FRV)」「r化・子接尾辞」等を主要なテーマとし、研究の高度化を目標とする。基礎的研究では特に声調研究と関連の深い「子音体系」「音節数」「母音体系」を中心に「音韻体系」「基礎語彙」等の分析を行う。萌芽的研究では「方言統語構造」「方言語用論」「周辺言語」等の研究に着手し、より体系的・理論的な研究への道筋を開く事を目指とする。

4. 研究成果

2021年『Linguistic Atlas of Asia (アジア言語地図集)』ではアジア全域に分布する言語の各言語項目について詳細な分布を描き、各言語における分布の特徴や言語間の関連性について議論する。本集においては言語2000地点ほどの密度で「太陽・稲・乳・風・鉄・計数法(類別詞)・声調とアクセント・雨が降る」の8項目を扱う。各語族合計24名に及ぶ専門家による共同研究の成果で、項目ごとにアジア全域における概観が与えられ、マクロ・ミクロな地理分布を一望することができる。申請者は植屋高史・鈴木史己とともに中国語部分の執筆を担当した。中国語は同書で扱う言語の中で最も地点数が多く、地理的にも言語類型的にも南北の言語の中間に位置しており、本書の中でも中核的な位置付けを占める。先行する類書としてはMartin Haspelmath他(2005) The World Atlas of Language Structures (WALS)があるが、同書では例えば中国語方言は基本的に数地点程度しか扱われておらず、言語地理学的検討を行う本書とは質的に全く異なっている。

2021年「er音的分布——以中西部方言为主」は漢語方言におけるer音の分布と変遷について止撰諸字、日字およびその他の異なる中古音の来源字の地図から論じる。止撰諸字と日字は標準語においては異なる字音となるが、方言によっては合流する場合がある。諸方言に出現する両者の字音を比べると、特に入声の舒声化した北方においては並行的な変化の過程を経ていることが窺われる。中国国内における非漢語における語頭と語末におけるr音の分布状況を見ると、特に西部地域において、語頭・語末ともにr音は北方に位置する言語に多く、南方ではそれらを持たない言語が多く分布することがわかる。この状況は漢語方言と並行的であり、中国語におけるer音はr音性の語頭子音からの排除という点では南方的な特徴を持ち、韻母における保存という点では北方的な特徴を持ち、南北両地域の特徴を兼ね備えていると考えることができる、といった点を論じた。

2022年「中国語方言における「兄」「弟」「姉」「妹」を表す語の分類と分布」では漢語方言内

部における兄弟姉妹を表す語の分布状況と類型論的な問題点について論じた。現代中国語方言において「兄」「弟」「姉」「妹」を示す語は全て区別されるが、ユーラシア大陸に分布する言語の中ではこのような体系は東部に集中する傾向があり、中国語の分布がその中核的な位置を占める。中国語方言に現れる語形の内部構造に目を向けると、「老(佬)」「大」「小」のように「兄」「弟」「姉」「妹」で共通に用いられる成分があり、また弟や妹を示す語形に「兄弟」「姉妹」のように兄や姉を示す語が用いられること、兄弟や姉妹を表すのに「兄」「弟」「姉」などの語形のみが用いられるといった事象は、兄弟姉妹の連続性を示しており、現代中国語の兄弟姉妹語体系の形成過程を考察する上で重要な手がかりとなる可能性がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Yagi, Kenji	4. 巻 1
2. 論文標題 " ' Mouse ' in Sinitic, ' Chicken ' in Sinitic, ' Horse ' in Sinitic, ' Dog ' in Sinitic, ' Bear ' in Sinitic"	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 "Studies in Asian and African Geolinguistics	6. 最初と最後の頁 64-248
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八木堅二	4. 巻 2
2. 論文標題 "中国語方言における「兄」「弟」「姉」「妹」を表す語の分類と分布"	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地理言語学研究	6. 最初と最後の頁 133-152
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yagi Kenji	4. 巻 1
2. 論文標題 Stop Series in Sinitic	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Studies in Asian and African Geolinguistics I	6. 最初と最後の頁 33-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八木 堅二	4. 巻 1
2. 論文標題 er音的分布 以中西部方言為主	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 亞非地理語言学研究	6. 最初と最後の頁 167-184
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 八木堅二
2. 発表標題 er音の分布和演变以中西部方言為主
3. 学会等名 中国語言地理比較研究論壇（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yagi Kenji
2. 発表標題 Stop series in Sinitic
3. 学会等名 The First Meeting of the Academic Year 2020 Joint Research Project on “Studies in Asian and African Geolinguistics”, ILCAA
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------